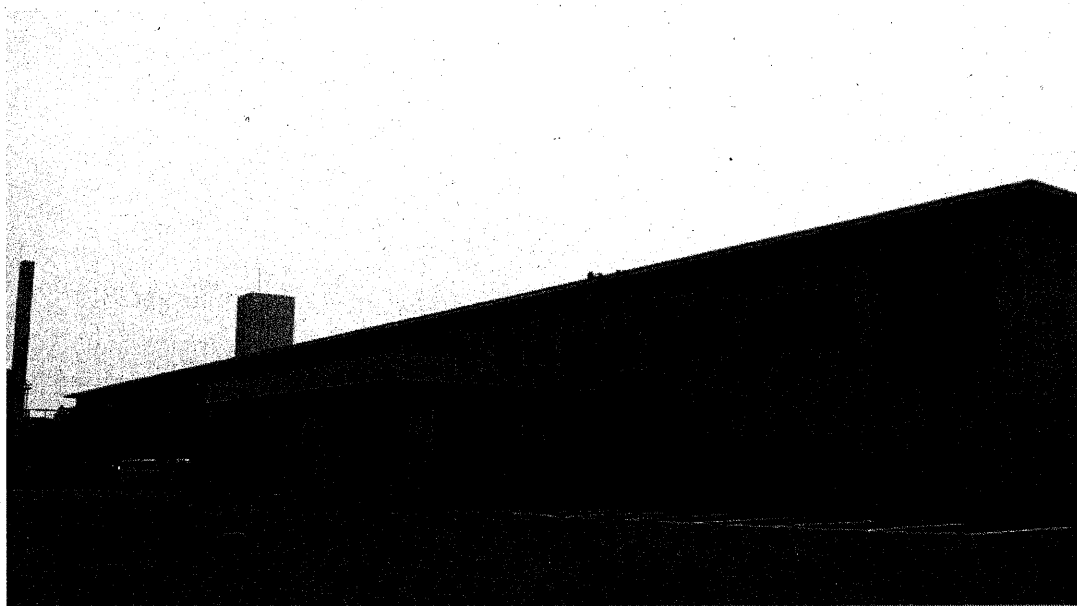


プルトニウム燃料第二開発室 (Pu-2) の概要

プルトニウム燃料第二開発室は昭和47年に建設された施設で、当初の目的であったMOX燃料製造業務を平成13年11月の「ふげん」燃料製造を最後に終え、現在は、燃料製造等に伴い発生した残存核燃料物質の有効利用に向けた整理処理、不稼働設備の解体撤去及び遠隔解体・廃棄物発生量低減化等に関する試験、並びに、民間MOX加工事業への技術協力として、日本原燃(株)で採用予定のプルスーマル燃料製造技術に係る小規模レベルの試験及びPu分析用標準物質の調製試験等を実施している。

建家は海岸から約400m離れた海拔約25~27mの小丘上の平坦部に位置し、鉄筋コンクリート耐火構造で、地上2階で構成されている。

管理区域内には、核燃料物質を非密封で取り扱うためのグローブボックス又はフードが設置されており、核燃料物質を非密封で取扱う装置等はこのグローブボックス又はフードの中に設置されている。管理区域及びグローブボックスは、換気設備により外気に対し内部を負圧に管理し、核燃料物質を閉じ込める設計である。また、200Lドラム缶換算で1560本の保管能力を持つ固体廃棄物の廃棄施設を有する。



プルトニウム燃料第二開発室